

# 実績報告書

届出者	住所	大阪市住之江区 南港東3-4-70	氏名	トキワ工業株式会社 代表取締役社長 平井 新吾
特定事業者の主たる業種		18プラスチック製品製造業（別掲を除く）		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		壁紙・ふすま紙製造業、工業用プラスチック製品加工業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 25 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	5,710 t-CO <sub>2</sub>	2,237 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,857 t-CO <sub>2</sub>	2,367 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.7 %	17.4 %	39.9 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	17 %	39.1 %	59.6 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

直燃式排ガス脱臭装置を廃止し、高効率蓄熱式排ガス脱臭装置を導入したことにより、エネルギー使用量(温室効果ガス排出量)が少なくなった。今後、エネルギー使用量が原油換算数量1,500klを超える事は無い見込みである。	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

電気需要の平準化を考慮し、生産体制の整備を図る。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG 排出	人工排熱				
1	レ	GHG 排出	全ての事業所	コード (1122) 空気調和設備 の運用改善	冷暖房の温度設定を省エネ設定 (28℃) にして運用を行う。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG 排出	全ての事業所	コード (1216) 空調機の更新	旧式の空調機を省エネタイプに更新する。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG 排出	貝塚工場	コード (5121) 電気需要の平 準化	電気需要の平準化を考慮し、操業シフト を組む。	28 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG 排出	人工排熱				
1		GHG 排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市北区梅田1-3-1	氏名	医療法人 徳洲会 理事長 鈴木 隆夫
特定事業者の主たる業種		83医療業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に病院を経営し、全国に35病院を開設し、うち、大阪府内では3病院を開設している。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 25 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	12,647 t-CO <sub>2</sub>	15,887 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	13,435 t-CO <sub>2</sub>	16,836 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ 削減率(原単位ベース)	3.3 %	1.2 %	-1.8 %	5.2 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	2.3 %	-1.6 %	5.5 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (延床面積)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>平成27年度に削減率が大幅に落ちてしまったが、平成28年度は照明をLEDに替えたり、冷温水ポンプ等の更新の際に高効率に替える等して、3年計画の中で一番削減をすることができた。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

・地球温暖化対策のため、各病院のエネルギー管理企画推進者は毎月、対策の進捗状況を報告し、本部でエネルギー管理統括者を中心に、現状改善などを検討します。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1113) 熱源機器の運転管理	冷暖房の温度設定及び給湯ボイラの温度設定を最適温度(夏・冬温度)を行い、管理する。(年間274t-CO2を削減)	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	岸和田病院	コード (1199) 照明器具の照度見直し対策	照度計で、各部屋の照度がJIS規格の最低照度合になるように、蛍光管等を間引きし、使用電力を削減する。(年間41t-CO2を削減)	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	八尾病院	コード (1199) 照明器具の照度見直し対策	照度計で、各部屋の照度がJIS規格の最低照度合になるように、蛍光管等を間引きし、使用電力を削減する。(年間37t-CO2を削減)	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	松原病院	コード (1199) 照明器具の照度見直し対策	照度計で、各部屋の照度がJIS規格の最低照度合になるように、蛍光管等を間引きし、使用電力を削減する。(年間30t-CO2を削減)	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	岸和田病院	コード (2121) 低燃費車の導入	病院所属の乗用車の更新時に、低燃費車を購入する。(年間2t-CO2)	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	八尾病院	コード (2121) 低燃費車の導入	病院所属の乗用車の更新時に、低燃費車を購入する。(年間2t-CO2)	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	松原病院	コード (2121) 低燃費車の導入	病院所属の乗用車の更新時に、低燃費車を購入する。(年間1t-CO2)	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策
